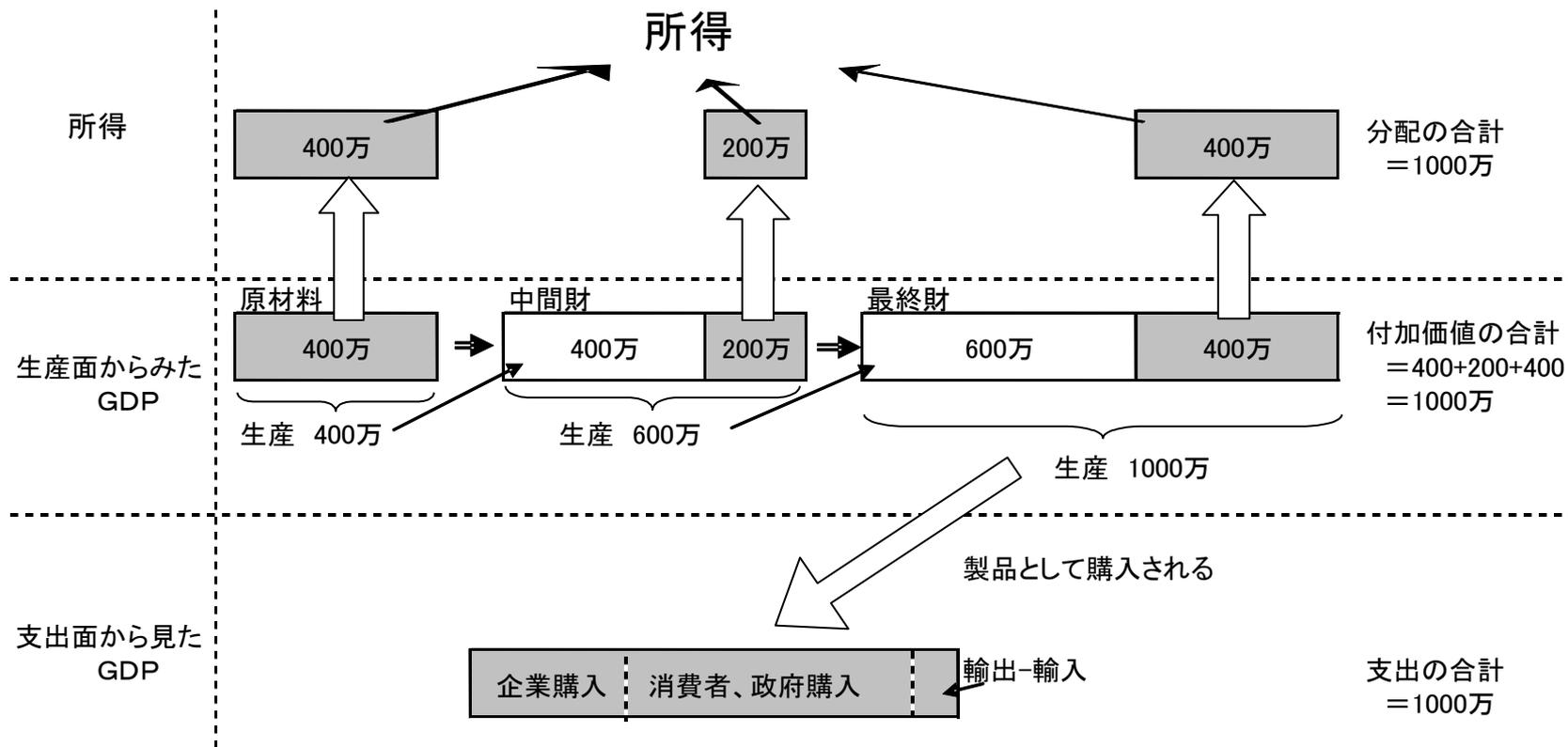


マクロ経済学A
復習と練習問題
来週の小テスト準備

2018年5月1、8日

第4～5回

生産面からのGDPは中段： 付加価値の合計



日本経済新聞18年3月8日付 支出項目ごとに内訳が出る

10～12月期の
GDP改定値の内訳
 (季節調整値、前期比の
 増減率%、▲は減少、民間
 在庫はGDP伸び率
 にどれだけ影響したかを
 示す寄与度ポイント)

	速報値	改定値
GDP (年率換算)	0.1 0.5	0.4 1.6
個人消費	0.5	0.5
住宅投資	▲2.7	▲2.6
設備投資	0.7	1.0
民間在庫	▲0.1	0.1
政府消費	▲0.1	▲0.0
公共投資	▲0.5	▲0.2
輸出入	2.4 2.9	2.4 2.9
名目GDP (年率換算)	▲0.0 ▲0.1	0.3 1.1

基礎問題(1)

1. ある国に企業が4つある。それぞれの生産額を、10、20、15、40とする。その中で、最終財の生産は、それぞれ5、15、15、25とする。GDPはいくらか？
 - ヒント:生産の定義のGDPは、付加価値の合計でもあり、最終財の合計でもある。
 - 「 $GDP = \text{家計消費} + \text{住宅投資} + \text{設備投資} + \text{政府支出} + \text{輸出} - \text{輸入}$ 」である。「輸出 - 輸入」を純輸出という。
2. ある国の中に企業が3つある。A企業は、原材料を10輸入し、加工して、B企業に15で売却した。B企業は、それをさらに加工して、C企業に30で売却した。C企業は、それを最終財として消費者に50で売却した。GDPはいくらか。
 - ヒント:輸入中間財が付加価値の混ざっている場合には、「 $\text{付加価値の合計} = \text{最終財の合計} - \text{輸入合計}$ 」である。

基礎問題(2)

3. 最終財の購入者をあげよ。
 - ヒント:最終財の購入額は、「消費+投資+政府支出+純輸出」であることに注目
4. 調査の結果、ある国の男性の賃金が30、女性の賃金が20、GDPが90と判明した。所得は、賃金と利潤である。企業の利潤はいくらになるか？配当が10であれば、内部留保はいくらか？
5. 消費者が、古本屋から10000円分の古本を買った。古本屋のもうけは2000円である。GDPの消費は、それだけ増えるだろうか？
6. 株主が、昔50万円で買った株式を200万円で売り、150万円もうけた。このもうけは、生産面からのGDPに計算すべきだろうか？

基礎問題(1-2)の答え

2. ある国の中に企業が3つある。A企業は、原材料を10輸入し、加工して、B企業に15で売却した。B企業は、それをさらに加工して、C企業に30で売却した。C企業は、それを最終財として消費者に50で売却した。GDPはいくらか。
- 「 $GDP = \text{家計消費} + \text{住宅投資} + \text{設備投資} + \text{政府支出} + \text{輸出} - \text{輸入}$ 」である。「 $\text{輸出} - \text{輸入}$ 」を純輸出という。
 - 「最終財の生産額=国内の付加価値合計」となるのは、それ以前の生産工程で、輸入したモノが入っていない場合だけ
 - 輸入中間財が付加価値の混ざっている場合には、「付加価値の合計 = 最終財の合計 - 輸入合計」である。
 - $GDP = 50 - 10 = 40 = (15 - 10) + (30 - 15) + (50 - 30)$
 - 50(家計消費 + 住宅投資 + 設備投資 + 政府支出)を国内需要という

基礎問題(1-1)の答

1. ある国に企業が4つある。それぞれの生産額を、10、20、15、40とする。その中で、最終財の生産は、それぞれ5、15、15、25とする。GDPはいくらか？
 - ヒント:生産の定義のGDPは、付加価値の合計でもあり、最終財の合計でもある。
- 複数の企業が入り混じって、中間財をやりとりしているようだ(たとえば、電力産業と鉄鋼産業のように)。
 - この時は、最終財の生産額だけ足しあげればよい。
 - すなわち、 $5+15+15+25=60$ となる。

基礎問題(2-3、2-4)

3. 最終財の購入者をあげよ。
 - 消費: 消費者(家計、人間)
 - 投資: 企業
 - 政府支出: 政府
 - 輸出: 外国居住者
4. 調査の結果、ある国の男性の賃金が30、女性の賃金が20、GDPが90と判明した。所得は、賃金と利潤である。企業の利潤はいくらになるか？配当が10であれば、内部留保はいくらか？
 - 企業利潤 = $90 - (30 + 20) = 40$
 - 内部留保 = 企業利潤 - 配当 = $40 - 10 = 30$
- 企業利潤は、付加価値のうち労働者に配分しなかったぶんである。利潤は、資本家がすべてとるが、内部留保という形でもう一度企業に使わせる(そうしないと、継続的に企業活動できない)

基礎問題(2-5、2-6)

5. 消費者が、古本屋から10000円分の古本を買った。古本屋のもうけは2000円である。GDPの消費は、それだけ増えるだろうか？
- 古本の価値は、過去に生産されたものであるもので、今年の生産分ではないので、今年の支出に加えてはいけない
 - 今年の生産は、古本屋の生産した取次サービス分である(2000円となる)
6. 株主が、昔50万円で買った株式を200万円で売り、150万円もうけた。このもうけは、生産面からのGDPに計算すべきだろうか？
- 株式は生産してできたモノではない。株価上昇によるもうけをキャピタルゲインといい、GDPには入れない。骨董品や土地の価格上昇によるもうけも同じ。